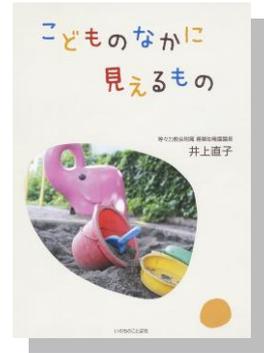


こどものなかに見えるもの/井上直子(善隣幼稚園園長)より

# 子育てワンポイント・励ましのことはら

わたしは、良い「集団」のなかでこそ  
良い「個」が育つし、「個」がのびのびと  
育たなければ、「集団」である意味は  
ないと思っています。



青々と茂る園庭の木々は、冬の間は幹と枝だけでした。葉も花もないといったい何の木なのかわかりません。けれど、時がくると芽が吹き出し、葉が成長し、花が咲きはじめ、「個」の違いがはっきりします。

人も何が得意で、何が苦手なのか、何を悩み、どう感じるのか、そして、何者なのか…すぐには分かりません。でも、時がくると少しずつ見えてくる、それが「個性」だと思います。

お母さんは、こどもが「個性」豊かにのびのびと育つことを願っていますね。それなのに、「みんな」と違うことをしていると、「どうしてなの!」と、いらだっていますか? 「個」が「集団」かで揺れ動く私たち…。

わたしは、良い「集団」のなかでこそ良い「個」が育つし、「個」がのびのびと育たなければ、「集団」である意味はないと思っています。良い「集団」は、「個」の違いを受け入れあう柔軟でやさしい「集団」です。だから「個性」が発揮されるればされるほど、魅力的でクリエイティブな「集団」に成長していきます。ちょうど、持ち味の違う木々が重なり合って美しい景観をつくり出しているこの園庭のように。

子どもたちの個性が輝き、それが折り重なって美しい社会を造りだすことができるように。社会や家庭のカラーに子どもを染めるのではなく、子どもたちにある「良いもの」を引き出してあげる親でありたいものです。